

【随筆】 「極彩色号の思い出」

日本鳩レース協会・賛助会員 福田 隆安 2020/12/記
(福田ロフト) <http://www.f-loft.com>

昭和37年(1962年)横浜市の大鳥中学校の三年生だった私は、ある日、同じクラスの鳩友だった大久保義晴くんから「東京に鳩を受取りに行くので、よかったら一緒に行ってくれないか?」と話しかけられました。よく聞くと、彼の父親が「一人で行くより友達と行きなさい。運賃は出してあげるから」とのことだったと記憶しています。快諾した私は、数日後の日曜日、6月頃だったと思います。私は約束の場所へ向かいました。彼は折り畳まれた4羽入りの柳のカゴを抱えてやって来ました。二人は電車に乗り、東京へ向かいます。目指すは、東京都渋谷区の大木有隣鳩舎です。代々木駅で降りて大木邸に着きました。彼は玄関前で、私に外で待っていてほしいと言いつつ、玄関に入っていました。私は大木邸の塀から見える青々とした庭木に立派な日本庭園なのか?と思いを巡らせた記憶が残っています。当時の大木有隣鳩舎には、「薫風号」「黒竜号」や戦後の五十島南部系の基礎鳩59061号、シオン・スタッサールやその他、有名鳩が多くいると、当時の鳩雑誌で多少の知識は持っていました。

しばらくすると、大久保くんが大木邸から出てきました。手にしたカゴの中には2羽の鳩が見えました。そして、その場で鳩を掴ませてもらいました。一羽は灰の若鳩、もう一羽は大柄な濃い灰胡麻白刺の成(老)鳩で、足が異常に太くアルミの足環がくい込んで痛々しかったことが印象に残っています。彼は、この鳩は「極彩色号」と言って有名なアバタ号の父親であると教えてくれました。

「極彩色号」とは、大内啓伍氏(元民社党書記長)作出の純シオン系で、言わずもがな伊藤純夫鳩舎の銘鳩「アバタ号」の父親であり「大日本号」と続く伊藤シオン系の飛び筋だ。

数日後、大久保君から、「お礼」としてキャビネ版のモノクロ写真二枚を頂きました。一枚は「極彩色号」もう一枚はヘクトール・ベルランジュ作62年生まれの若鳩の写真でした。彼の父親が浴槽のフタの上に鳩をのせ撮影してくれたそうです。この2枚の写真は後に「現代銘鳩写真大観」に載った写真と同一のものである事が判明しました。

大久保君の家は、中区小港町の公団住宅(団地)の2階でした。鳩舎はベランダに造られたタタミ半畳から大きくても1畳ほどだったと思います。

この頃の、小港の団地には、お豆腐屋さんだった金子善光さん(横浜連合会)がお豆腐の販売に来られていた縁で、大久保くんと何度か金子鳩舎に見学に伺った事があります。当時の中学生にとって血統書付のレース鳩は高根の花で、鳩ブームのさなかといえ、中学生で鳩レースに参加すると言う話しは、聞いたことがありません。

この時の体験を半世紀以上たった今、回想すると「東京に鳩を受取りに行く」とは、この年の6月に輸入されたH・ベルランジュの若鳩の事ではなかったか? 「極彩色号」は、繁殖が難しくなってきた有名鳩を、鳩の大好きな少年にプレゼントされたものではなかったかと、かつてに推論しています。

この年の年末、私は横浜から地方へ引越することになり彼とはそのままになりました。

「極彩色号」のその後「大木有隣鳩舎から大久保義晴鳩舎へ」の件(くだり)は以上です。

“極彩色号”

53-1716 BCWp ♂
大内 啓伍 作
大久保 義晴 鳩舎

直仔:“アバタ号”♂ 伊藤 純夫 作翔
57年1000k(連合会戦後初の帰還)
58年度七飯700キロ全国総合1位
孫:“大日本号”♂ 伊藤 純夫 作翔
58年盛岡500k優勝、七飯700k2位
羽幌1000k優勝 分速1174.266m
(日本鳩界初の当日帰り)

父;52-10159 灰栗
大内 啓伍 作 純シオン系
200k記録

祖父;IF51LPC51240

祖母;IF51LPC51230

共にアメリカのロバーツ作

母;51-56 黒胡麻

大内 啓伍 作 純シオン系

200k1位、300k33位

祖父;24-10370 黒胡麻

石岡 勇蔵 作 純シオン系

祖母;25-0051 栗胡麻

山田 亀三郎 作 純シオン系

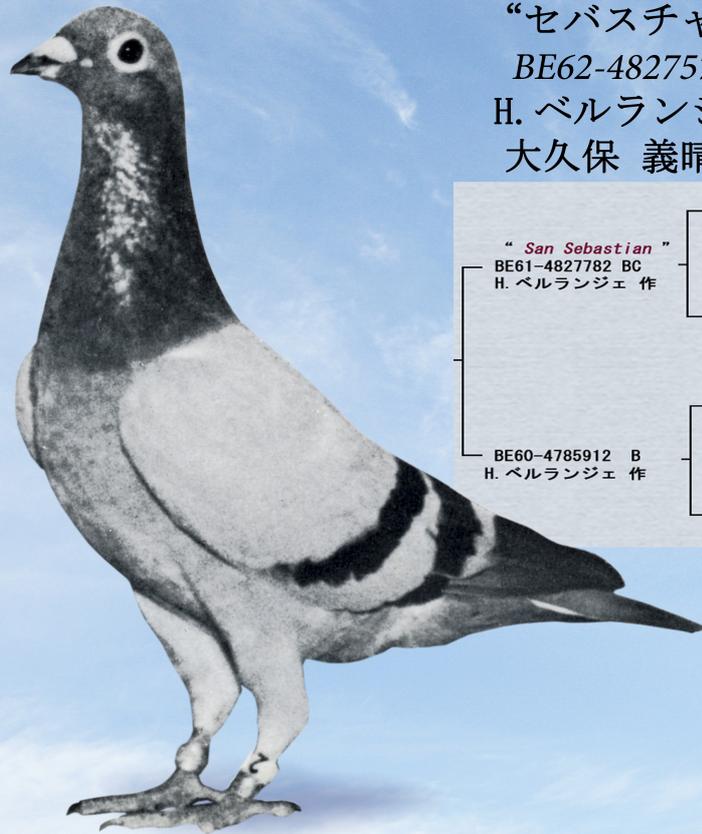
(並河シオン系)



Photo by T. Fukuda

“セバスチャン号”

BE62-4827571 B ♂
H. ベルランジュ 作
大久保 義晴 鳩舎



“San Sebastian”
BE61-4827782 BC
H. ベルランジュ 作

BE60-4785912 B
H. ベルランジュ 作

“大ファンション”
BE54-4838371 BC
H. ベルランジュ 作
ベルラック 1位
バルト+Int. 23位&33位
ブリーフ 42位+R28位他

BE55-3055872 BC
バンデンブルック系
ネロの近親

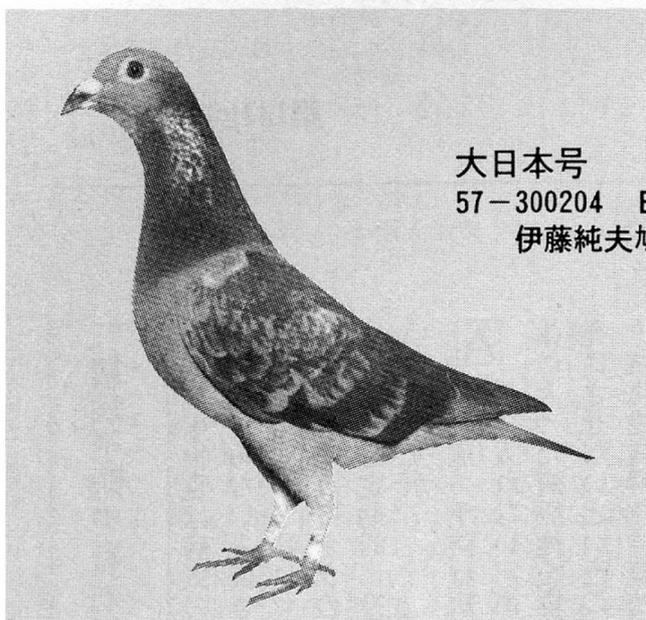
BE57-3344712 B
H. ベルランジュ 作

BE57-3344724 B
H. ベルランジュ 作

参考資料:「愛鳩の友」より

... 21世紀に残したいこの一羽 第1回 ...

新コーナーとして新年号、2月号で皆さんからのお便りを募集したところ、早速、届きました。皆さんの思い出、情熱が熱く伝わってきます。今月は1958年に1,000K当日帰りを遂げた大日本号をご紹介します。



大日本号
57-300204 BC ♂
伊藤純夫鳩舎作翔

●今月の1羽 やはり 1,000K当日帰りの衝撃は言葉に尽くせぬものがありました。確かその後、盗難にあったという悲劇性と相まって忘れる事の出来ない一羽です。兵庫県 岡林 信康

“大日本号”は当舎の代表レーサーであった“アバタ号”の直子で1958年に親子共 700K入賞した後、1,000Kに参加しました。当時1,000Kで当日帰るとは夢にも思わず、外出先で帰還を知らされ急いで帰宅し、愛鳩を抱き上げた事を覚えています。直後から新聞社等の取材が始まり、興奮から覚めたのは夜中の3時すぎで大変な一日でした。その後徐々に実感が伴い、この大記録の味を噛みしめたものでした。

当時、愛鳩の友誌に“20世紀の奇跡”として取り上げられ、同じこのような大記録は出ないだろうといわれましたが、この記録は翌年あっさりと破られてしまい、その後 1,000K当日帰りはレーサーの常識となってしまいました。

この“大日本号”はその年の秋、盗難にあい、僅か半年の栄光を飾っただけでレース界から消えました。父親のアバタ号もその二年後に、知人の鳩舎で盗難にあいましたが、一年後に帰還し、直系に多くの長距離優入賞鳩を輩出しました。これらの活躍は42年後の現在も各地で引き継がれている事を考えると、“大日本号”の盗難は当時の鳩界にとって大きな損失であったとも思えます。ちなみに私は盗難後、数年間に渡り、“大日本号”の夢を何回も見た事を記しておきます。 作翔者/伊藤純夫氏談

58年春 富岡 200K 68位、小牛田 300K 30位、盛岡 500K 優勝、七飯 700K 2位、羽幌 1,000K 優勝

アバタ号 56-30280 BC 伊藤作

56年 100K 7位、200K 6位、300K、600K 翌日 57年

57年 羽幌 1,000K 18日目優勝

58年 羽幌 700K 優勝、郵政大臣賞 妹) 高松宮杯 10位

53-1716 BC 大内鳩舎作 純シオン

53-16502 B シオン系

56-1844 BC 56年秋 100K 優勝、200K 8位、300K、

野辺地 600K 翌日 2回 57年春 盛岡 500K、600K 翌日

25-18003 RC 方波見鳩舎作

53-51200 RC 伊東 100K、品評会入賞 純シオン系